

みんなの「普通」

いわき市立江名中学校 3年 上遠野 心優

みんなは、「普通」をどのように考えているのだろうか。

私がよく世間で耳にするのが、「男女の普通」のことだ。例えば、女子の制服はスカート、男子はズボン。女子は男子を好きになって、男子は女子を好きになる。要するに私が言う「男女の普通」とは、「女の子は女の子らしく」「男の子は男の子らしく」という考え方のことだ。しかし、私はこのことを普通だとは思わない。

私は時々、「『普通』って何だろう。」とふと考える時がある。だけど、いつも答えが見つからないまま終わる。私は今だに「普通」の正解が何なのか分からない。

私が小学生の頃、母に「女の子なんだから、もっと女の子らしく行儀よくしなさい。」

と言われたことがある。私はこれに「女の子らしくとか何。行儀よくするのに男も女も関係ないじゃん。」と、少し嫌悪感を抱いた。今思うと、「女の子は女の子らしくすること」が母にとっての「普通」なのだと感じる。最近だと父の言ったことが強く印象に残っている。それは、家族で夕食をとっていた時のことだった。その時、テレビにはバラエティー番組がかかっていた、化粧をした男性芸能人の話題で盛り上がっていた。それを見て父は言った。

「男なのに化粧なんかして気持ち悪い。化粧は普通、女がするものだろ。」と。いつも優しくて大好きな父が、その時だけはとても嫌な人に見えた。父にとっての「普通」は「化粧は女性がすること」で「普通ではないこと」が「男性が化粧をすること」らしい。私は「男なのにとか関係ないでしょ。今時、男の人でもメイクするし。時代遅れだな。」と思った。思っただけで言えなかった。大好きな父の「普通ではない」に当てはめられそうな気がして、怖くて言えなかった。「それは普通だ。」と、はっきり言えない自分が情けなくて、格好悪くて腹が立った。母も父も相手を嫌な気持ちにさせようとして言ったわけではないのだと思う。自分が考える「普通」を何も思わずに自然と口に出しただけなのだと思う。しかし、その何気ない言葉で嫌な思いをしたり自分のやりたいことができなかったりする人を知っていることを知ってほしいと思った。次に同じようなことが起きた時は、はっきり言おうと思った。「それは普通だ。」と。

その出来事があって、しばらく月日が経った頃、私はお祭りの帰り道を友達数

人と話しながら歩いていた。すると突然、一人の友達が言った。それは、ある男子生徒についてだった。

「俺、噂で聞いたんだけど、〇〇って男のこと好きらしい。」

その途端、他の友達が次々と言葉を発する。

「え。まじで。あいつ同性愛者なのか。」

「それってつまりゲイってこと。」

みんなまるで、それは普通のことではなくて珍しいことなんだと言わんばかりに話をしていた。私もその噂を聞いて、とても驚いた。噂だとしても、自分が通っている学校に同性愛者がいるとは思わなかったからだ。そんな自分にまた腹が立った。けれど、今度は言おうと思った。「それは別に特別でも何でもない。」と「普通のことだ。」と。でも、やっぱり言えなかった。否定されるのが怖かった。そして私は、みんなに合わせるようにして言った。今思えば、本音も混ざっていたと思う。

「まじで。めっちゃ意外なんだけど。」

とても格好悪いと思った。自分が。父の時と何も変わってないじゃないかと思った。その時、噂の話が始まってから一言も発していなかった一人の友達が言った。

「俺はいいと思うけどね。応援するし。別に普通のことじゃね。」と。

堂々とそれが当たりまえで当然のことだというように言った。とてもカッコイイと思った。みんなもその発言に対して「それは違う。普通じゃない。」などの否定的な発言ではなく、

「まあ。確かに。恋愛に性別とか関係ないもんね。」

「誰を好きになるかとか、そいつの自由だもんね。」

と言っていた。これは私の友達の中という小さな小さな世界の中で起こったことだ。けれど、このような出来事がこの小さな世界だけでなく、もっと大きな世界中で起こればいいのにと私は強く思った。

「『普通』とは何か。」と考えた時、答えは一つだけだなんてことはないのだと思う。みんなそれぞれが「普通」に対する考えを持っていて、その考えは一人一人異なっているからだ。大切なのは、それぞれの「普通」を互いに理解し認め合うことだと私は思う。私は、誰もが好きなことを堂々とできて、それが「普通」と言える社会になることを願う。